

随想・随筆

時空を超えて

(株)ヨーロッパ・ビジネス・サービス (EBS) 代表取締役 松尾 卓也



ライデンのシーボルトハウスにて

今年は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が世界文化遺産に決定したり、昨年はカズオ・イングロ氏がノーベル賞を受賞し、氏が長崎市出身ということもあり長崎が少し話題

となった。長崎市出身の私としては故郷が注目されることは嬉しいことである。

長崎とヨーロッパは歴史的に関わりが深い。ポルトガルが派遣した宣教師フランシスコ・ザビエルが1549年に鹿児島に上陸後1550年に平戸に布教に訪れている。私は以前ザビエルはポルトガル人と思っていたが、彼はスペイン人でバスク地方のナバラ王国のハビエル城で生まれ地方貴族の家で育った。私は10年ほど前に彼の地を訪れ感慨にふけた。現在は博物館となっている。キリスト教は1587年秀吉のバテレン追放令からキリシタン弾圧がはじまり徳川時代、明治にかけて弾圧は続いた。長崎には歴史的に潜伏キリシタンが多かった。そういう私も父方は浦上出身、母方は五島出身でともに先祖代々カトリック教徒である。潜伏キリシタンであった可能性が高い。

長崎とヨーロッパの関係でいうとシーボルトとグラバーにも触れておきたい。

シーボルトについても私は以前彼はオランダ人と思っていたがドイツの貴族階級の医者のお家で1796年に生まれ育っている。彼は大学で

医学をはじめ動物、植物、地理なども学びその後東洋学研究を志した。そしてオランダ領東インド陸軍病院の外科少佐となりジャカルタに配属される。その後日本研究の希望が認められ、1823年来日し長崎の出島のオランダ商館医となった。シーボルトは日本に近代西洋医学を伝え、また、日本をヨーロッパに紹介した。オランダのライデンには日本博物館シーボルトハウスがあり筆者も訪れた。浮世絵・漆器・陶磁器・化石・動植物標本・古銭・衣装・古地図などよく集めたものである。

グラバーは1838年にスコットランドのアバディーンに生まれ育ち、1859年に上海に渡りジャーティン・マセソン商会に入社。同年長崎に移った後にグラバー商会を設立。幕末から明治にかけて製茶や武器など貿易業や造船、炭鉱などを通して日本の近代化に貢献。坂本龍馬や岩崎弥太郎などの龜山社中との取引もあり三菱財閥との縁が深い。グラバーは私の実家から歩いて5分の坂本国際墓地に眠っている。子供の頃から度々訪れた。

時空を超えての旅は楽しい。